

「青年・勝利の年」の若き大山脈を！

創価学名誉代会長

池田 大作

崇高な

広布の仏勅

受け継げや

青年王者の

君らは仏か

「民衆は青年がいるから美しい」 - 中央アジアのカザフスタンに伝えられてきた格言である。まったく、その通りだ。

青年なき社会は灰色だ。青年こそ人類の宝である。青年を愛し、青年の活躍の道を開くところに、未来の希望は洋々と広がる。

歴史上、どれほど多くの若き尊き命が、残酷な戦争や暴力で奪われてきたことか。私たちの世代も、嫌というほど思い知らされた。

権力の魔性は、青年を利用し、青年を犠牲にして、憚らない。

その魔性に憤然と挑まれたのが、創価の父・牧口常三郎先生であり、戸田城聖先生である。お二人とも、狡賢い大人など信用されなかった。高潔な理想に燃える青年の心こそを、信じ抜かれた。

この信頼に、十九歳の私は立ち上がった。若き力で、平和と正義の新時代、すなわち「青年・勝利」の世紀を勝ち開くのだ、と。

全世界

君を見つめむ

青年部

勝鬨あげて

青春飾れや

御聖訓には「日蓮が弟子檀那の肝要は本果より本因を宗とするなり、本因なくして本果有る可からず」(808ページ)と仰せである。

大事なのは「本因」である。万人が成仏という最高の幸福境涯を勝ち取るための根本の因を、大聖人は南無妙法蓮華経と説き明かしてくださった。誰人たりとも、今この時、この場所で、妙法を唱え、妙法に生き切ることによって、尊極なる久遠元初の仏の生命に立ち返ることができる。昇りゆく旭日のごとく、常に鮮烈な生命力で出発できるのだ。過去の宿業を嘆く必要などない。

「今から」である。「これから」である。「いよいよ」である。

この「本因妙」という前進の息吹を、最も滾らせていく力こそ、師弟にほかならない。正しき師弟を求め、師の心に応えんとする弟子の一念にこそ、前進と勝利の本因が刻まれるからだ。ゆえに、師弟に生き抜く生命は、永遠に若い。その人が永遠の青年なのだ。

気高くも

広布の歌声

美しく

乙女の成長

諸仏は護らむ

日本も、世界も、深刻な経済危機に揺れ動いている。法華経に説かれる通りの「五濁悪世」の時代の様相である。多感な若者の心を惑わし、誑かす悪縁もはびこっている。だからこそ、青年は賢く鋭くならねばならない。強く勇敢に大連帯を組みゆくことだ。

混迷を打開しゆく智慧も力も、誰かが与えてくれるのではない。自身の中にこそある。若き生命には、いまだ開発されぬ無量の宝材が秘められている。それを引き出す源泉が、信仰なのだ。

アメリカの未来学者ヘンダーソン博士は、創価の女性を讃えて、「学会は、一人一人が持つ可能性を深く自覚し、その可能性の開発を常に教えてきました。この作業こそ、人間として最も幸福な生き方ではありませんか」と語ってくださった。

いま、全世界で「広布大二幕・池田華陽会」が躍動している。

「青年・勝利の年」は、わが女子部の「幸福勝利の年」である。

「若人がぐんぐん伸びゆく創価学会たれ！」

「学会の青年部のたくましさを吹き込んでこそ、今の青年層を蘇らせることができる」と、恩師は胸を張って語っておられた。

「一閻浮提広宣流布」という未曾有の民衆運動に勇み立つことほど、価値ある青春の晴れ舞台が、いったい、どこにあるのか。

「世界は変わる！創価の青年たちの情熱があれば！」とは、世界の教育界から寄せられる絶賛である。

ブラジルの天文学者モウラン博士と、私は語り合った。

一宇宙は常に進化を続けている。同じく、私たち人間も常に成長し続けていくのだ、と。

あの世界最高峰のヒマラヤ山脈も、風雪を受けながら、一年また一年、隆起し成長してきたという。わが創価の青年山脈よ！

世界の人材王者の誇りも高く、巖然と堂々と、勝利、勝利の上昇を！

逞しき

正義の創価の

青年が

歴史の幕をば

開かむ力よ